

第22回徳島県規制改革会議 議事要旨

- 1 開催日時 令和5年7月27日(木)15:15~16:45
- 2 開催場所 県庁11階講堂
- 3 出席委員 床桜座長、田村委員、加渡委員、多田委員、音瀬委員、
青木委員、後藤委員、橋本委員、後藤田委員、新居委員代理

4 審議の内容

「第21回会議時提案」に関する意見交換

①地方における交通弱者対策

(委員)

NPOが自家用車での運送だけでなく買い物支援を行っている事例もある。他に同様のことをしている事例もあるのか。

(所管課)

同様のことができる支援システムもあるようだが、県では個別詳細までは把握していない。

(委員)

過疎地域では単なる交通支援だけではなく生活支援の意味合いも強いいため、行政も民間とコラボして、コミュニティを守っていくという視点も大事にしてほしい。

(委員)

高齢者で働きたいが、交通手段がないため諦めざるをえない方もいるので、免許返納者本人、会社に対しての支援もあればいいと思う。

②障がい者の事務手続き簡素化

(委員)

受給者証の申請に関しても、サービスを利用する際も書く書類が大量にある。受給者証申込書類も、10年間で、マイナンバー記載欄以外、変わっていないため、1年で1回でもいいので、様式等を見直してほしい。

市町村によっても、様式がまちまちなため、統一してほしい。

障がいにも種類があるが、フォーマットが1種類でもよいのか。

きょうだい児での利用時も、市で把握しているのに同じ書類が2種類提出する必要があるのか。

③保育所利用申請事務簡素化

(委員)

最近、保育所利用申請をしたが、マイナンバーで申請できることを知ら

なかった。市役所に電話で聞いた際、窓口に来てもらうか・様式をダウンロードして提出してもらうしかないと言われたため、市町村の窓口担当者が住民に説明できるまで情報がいつているのか。

(所管課)

広報するという点が、現状、どの自治体でも不十分であるため積極的に働きかけていきたい。

(委員)

制度があるが、知られていないのは、制度がないのと同じ。窓口の担当者が説明できるまで、落とし込んでいかなければ、まさに実質的障壁だ。システムを導入しているかどうかではなく、きちんと機能しているかどうか、検証してほしい。

④農産物の輸出

(委員)

令和3年度実績30億円の内訳と主な輸出先は。

(所管課)

牛肉と水産物が多くの割合を占めている。牛肉はマレーシアと中東地域、水産物はシンガポール、香港、台湾が多い。

(委員)

輸出促進には、国どおしの調整が引き続き必要なようだが。

(所管課)

国民所得の高いアメリカ、オーストラリア等にも輸出したいが、輸出ができない国なので、引き続き、国に2国間協議を進めていくように求めている。

⑤有機農業の推進

(委員)

県内の農家の有機農業へのスタンスは？積極的にしたいという方もいるのか。県内で、有機農業に力を入れようとしている地域があるのか。

(所管課)

有機農業に取り組みやすい品目と取り組みにくい品目がある。水稻が比較的取り組みやすいため、JAが積極的に取り組んでいる地域もある。県の計画の中で、有機農業をモデル的に進めて行く特定地域を5カ所設定している。野菜や果樹では収量が落ちるため、意欲があっても難しい場合がある。

(委員)

輸出と同様に、高付加価値で高単価なものを売っていく販路開拓をしていくことも重要である。

(委員)

消費者自身も勉強して、いいものは買ったほうがよい。

⑥リスキリングの推進

(委員)

企業の中で切れ目なく、継続的に人材育成ができるかは非常に重要。どこかに出向いて行って技術を身につけるとというのが前提にあり、その穴をどう埋めるのかという議論が、まだできていないと思う。どの職場、職種でも5年後・10年後、今の技術で通用するのは難しい。生成型AIが注目されている中、今の仕事がどう変わるのか・今、働いている人が5年後・10年後、どんな働き方をするのかということ、もっとしっかりと考えていく制度が必要。特に中小企業をどうやって支援していくのが重要。

(委員)

自動車業界も、どんどん車が進化していくのに伴い、技術者の技術取得も必要。法律も変わっているので、資格を取らないと仕事をしていけない。交代で資格を取りにいける職場はいいが、そうでない職場は困る。資格を取りに行っている間の補助、支援があると助かる。